



【令和5年度要求額 5,521百万円（5,308百万円）】

## 環境政策の推進に不可欠な研究開発を促進します。

### 1. 事業目的

気候変動問題への対応、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施。（エネルギー起源CO2排出削減に直接資する研究開発及び環境省他部局・他府省が実施する事業と内容が重複する研究開発は推進費の公募対象外。）

### 2. 事業内容

環境研究総合推進費は「環境研究・環境技術開発の推進戦略」に示された「重点課題」及び環境省からの行政要請研究テーマ（行政ニーズ）を提示して公募を行い、広く産学民官の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会の審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的資金です。令和5年度は「第6期科学技術・イノベーション基本計画」「統合イノベーション戦略2022」等を踏まえ、環境政策への貢献・反映に立脚した戦略的な研究開発、Society 5.0実現に向けた研究開発を強力に推進します。

#### 環境省

- 基本方針
- 行政ニーズ提示
- 政策活用
- 制度評価

#### ERCA ※

- 公募・審査
- 配分・契約
- 研究管理

※ERCA：(独)環境再生保全機構

研究の委託

委託費

研究実施

研究の補助

補助金

- 大学、
- 研究機関、
- 研究開発法人等

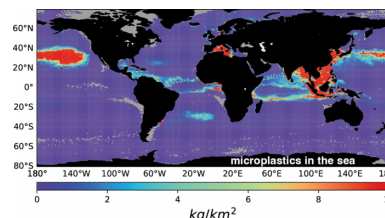
成果報告

### 3. 事業スキーム

- 事業形態 競争的資金制度による交付（配分機関：ERCA）
- 委託先等 大学／研究機関／民間事業者・団体／地方公共団体一般
- 実施期間 平成29年度～

### 4. 研究開発成果の例

#### 環境中に漏れた全世界のプラスチックごみ約60年分の解析 ～5%程度が海に流出し95%程度(約5億トン)は陸上で行方不明に～

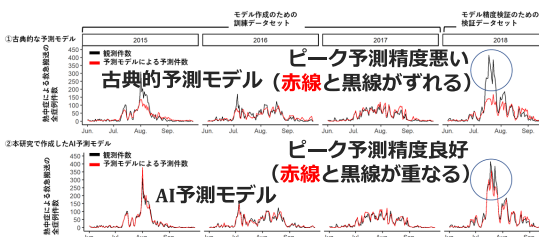


1960年代から現在までの海洋プラスチックの行方を世界で初めて重量ベースで明らかにしました。これまで全世界のプラスチックゴミの5%程度が海に流出し、その約67%(1,680万トン)が海底に沈むなどして、すでに海岸や海面近くに無いことが推計されました。本研究成果は、大阪G20サミットで宣言された大阪ブルー・オーシャン・ビジョンの実現に役立つことが期待されます。

図：海洋表層に漂うマイクロプラスチック（プレスリース資料より）  
研究成果が「Science of the Total Environment」掲載

(九州大学、国立研究開発法人土壌研究所寒地土壌研究所)

#### AIと天気情報等の活用による熱中症発症数の高精度予測



図：熱中症による救急搬送の全症例数比較（プレスリース資料より）

研究成果が「Nature Communications」掲載

(国立循環器病研究センター、関西大学、国立環境研究所)

天気情報と暦情報、市町村の統計情報を用いたAIモデルを世界で初めて作成し、熱中症による救急搬送の全症例件数と中等症以上症例件数を高精度に予測することに成功しました。本モデルを実装し、将来的に熱中症アラートを高精度に発信することで、熱中症予防につながることを期待されます。